

—第14回— 「当院での医師育成について」

茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター

よし かわ ひろ ゆき
病院長 吉川 裕之



当院では大学病院と同様に、医師免許取得後2年間の初期研修医、その後3～4年間の後期研修医(現在では専攻医と呼びます)を受け入れて、医師の育成に努めています。専攻医は専門医試験を受けて、合格することで基本領域19診療科の専門医(※1)となり、この基本領域の専門医を取得させるところまでが医師育成の基本となります。この後にさらに細分化されたサブスペシャリティ領域の専門医(※2)をめざす医師が多く、医師の研修は一生涯続くこととなります。

茨城県は人口当りの医師数が埼玉県に次いで2番目に少ない県です。地方医療の充実のため、医師確保の施策の一つとして最近では地域枠入試(※3)が筑波大学の他、東京医大などの6大学にも認められています。筑波大学だけでも地域枠入学者数は平成21年度～平成31年度までの11年間で229名に上り、すでに初期研修医、専攻医として、茨城県内の病院で活躍しつつ、専門医をめざして研修をしながら日々研鑽を重ねています。

当院の初期臨床研修は、救急および一般外来での対応能力と、診断・治療の立案から実践までの入院患者管理能力を育成することを目標にしています。上級医がベッドサイドでその都度指導する現場での研修を重視しており、当院採用の初期研修医(毎年11名程度)に加え筑波大学、東京大学等からの派遣を含む27名の初期研修医が現在研修中です。それに加え、卒後3

～5年目の専攻医24名と6年目以降の専攻医10名が在籍しています。

そして更なる研修の充実化のために今年1月に約2,000㎡の「研修棟」をオープンしました。こちらでは医療スキルトレーニング室を備え、腹腔鏡下手術の研修や人形を使った蘇生の訓練などができるようになっています。さらに、本年度中にはロボット手術のシミュレーション機器も設置予定となっており、初期研修医や専攻医に恵まれた研修環境を提供できるようになりましたことをうれしく思っています。このように当院が医師の育成に尽力していることを患者さまやご家族にもご理解いただき、ご協力いただきたくお願いを申し上げます。将来にわたって、茨城県民の皆さまがより健康で安心して暮らしていけるよう若き医師達が貢献してくれると確信しております。

- (※1) 内科、外科、小児科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科、形成外科、整形外科、精神科、麻酔科、放射線科、救急科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、総合診療科、病理科、臨床検査科、リハビリテーション科
- (※2) 基本領域での専門医の取得が要件。より専門性の高いサブスペシャリティ領域には消化器内科、循環器内科、消化器外科、循環器外科、婦人科腫瘍などの数十領域がある。
- (※3) 医師不足を解消するために設けられた。卒後9年間は茨城県での勤務が義務づけられている。